1970.7.16 明治大学新聞

新寮闘委が抗議行動

十三日には機動隊も出動

十一日から十六日にかけて、当局の団体交渉拒否に抗議する新寮闘争委員会の寮生は再三、学生課に押しかけ、十三日には機動隊が出動するという緊迫した事態も生じた。

十一日、新寮闘委の寮生約三十名は、二部学生課に赴き、新寮闘委が八日に行った団交要請への当局の見解「寮問題について」（七月十日付）に対する抗議文を手渡した。この抗議文は当初、十日に手渡される予定であったが、十日に二部学生課が六時をもって休業してしまったため、この日に持ち越されたもの。これに先立ち、寮生はまず、「十日に休業したのは何故か」と学生課に問いただした。これに対して「法学部（駿台法学会）の学生大会があり、混乱が予想されたため、その警備に職員をとられた」と学生課では説明。しかし、寮生は「学生大会には二部学生課の職員はほとんど来ていなかった」と主張した。

さらに寮生は大木芳朗学生部長に電話し「僕たちの話を聞くだけでいいから来てほしい」と要望したが一時間半にわたるやり取りの末、拒否されたため、この日は抗議文を渡すのみで、午後十時ごぎ引きあげた。

十三日、和泉、吉祥寺両女子寮の女子寮生十数名を含む約四十名の寮生は、記念館前で抗議集会を開いた後、午後六時ごろ二部学生課へ赴き「大学は、学生課が大学と学生の間をつなぐパイプだといっているが、学生課は大学の指示に従うだけで、パイプなどではない」と抗議し、学生課員の一人一人に、「寮問題をどう考えるか」と問いただした。これに対し学生課員は沈黙してほとんど語らず、議論が空転。

大学側は寮生のこの行為に対し「本日の業務は全て終わったから大学から出るように」との放送を何度も繰り返した。

十二時すぎ、二部学生課前には大学職員十数人が集まり、校門前には機動隊が待機。午前一時頃、「二部学生課はパイプではなかった」旨の確認書が学生課員と寮生との間で取り交されたため、寮生は午前一時五十分、校門を出た。

また十四日午後四時ごろ、新寮闘争委員会の学生約二十名は一部学生課に向い、学長および新・旧両学生部長宛に団交の「要請文」を出した。

寮生はこの日も、学生課が大学と学生の間の「パイプ」となりうるかについて一部学生課職員の一人一人に問いただした。これに対し学生課職員は「組織としての限界性はあるが、本来の学生課の役割を果たすよう努力する」と答えた。寮生は六時過ぎ、一部学生課を出て、七号館前で集会を開いた後、解散した。

十四日の「要請文」に対する大学の見解「再び寮問題について」（七月十六日付）が出されたため新寮闘争委員会の寮生約二十名は十六日にも一部学生課に向い、再び学生課の役割と限界について話し合い寮担当の職員から確認書を取って、午後六時過ぎ引き上げた。

なお、大学側は、この間の確認書を一切認めない方針を打ち出している。